

第3章

事業の実施



日本国内活動の概要

外国参加青年は平成 29 年 1 月 17 日に来日した。翌 18 日の夜に開催した歓迎レセプションでは石原宏高内閣府副大臣が歓迎のあいさつを行った。1 月 19 日から 22 日にわたり、外国参加青年に対して三泊四日の地方プログラムを実施した。1 月 21 日からは、日本参加青年の出航前研修をオリンピックセンターで開始し、22 日の夕方に地方プログラムから帰京した外国参加青年が合流し、全参加青年そろって本格的に陸上研修を開始した（研修の成果については第 5 章を参照）。

1 月 23 日から 1 月 28 日まで実施された陸上研修中、各国の NL と ANL1 名は 24 日安倍晋三内閣総理大臣表

敬を行い、25 日に皇太子殿下への御接見を賜った。

1 月 24 日にはレター・グループ別に分かれて、日本参加青年が外国参加青年を案内する都内視察を実施し、26 日には、研修の中心的プログラムであるコース・ディスカッションの六つのテーマ別に、コースの内容に即した課題別視察を実施した（課題別視察の成果については第 5 章を参照）。

1 月 29 日の午後、参加青年は横浜へ移動し、にっぽん丸に乗船。30 日には、船上でオープンシップ（船内見学会）と出航式を行い、16:00 に横浜港大さん橋国際客船ターミナルを出航した。

地方プログラム

山形県（ケニアとトンガ参加青年）

月 日	時 間	活動内容
1月19日 (木)	10:00 - 12:44 13:30 - 14:20 15:00 - 15:45 16:00 - 16:45	東京駅より山形駅へ（つばさ 133 号） 飛塚典子山形県子育て推進部部長表敬訪問 文翔館見学 最上義光歴史館見学
1月20日 (金)	12:20 - 17:00 18:00 - 20:00	九里学園で学生との交流 歓迎会及びホームステイマッチング
1月21日 (土)	終日	ホームステイ
1月22日 (日)	12:15 12:38 - 14:48	ホームステイ家庭より集合 米沢駅より東京駅へ（つばさ 140 号）



山形県青年国際交流機構
事務局長 佐久間竜太

山形県では、一日目、県庁表敬のほか文化施設へ訪問、地域の歴史・文化を学習するとともに、多くが雪を見たことがないとのことで、プログラムの合間を縫って雪と戯れる光景がよく見られました。二日目は、丸一日、九里学園高等学校で交流しました。書道・茶道体験のほか、クラスに分かれて意見交換やゲームを行うなど、参加青年はもとより、地元の生徒にとっても貴重な体験となりました。ホームステイでは、初の試みとして、説明会の際、本県在住ケニア青年と青年海外協力隊隊員（トンガ派遣）の話聞く機会を設け、予備知識を身に付けての受入れとなりました。今回、初めてホストファミリーをしてくださった方からは「言葉が通じるか不安だったけど、こんなに楽しいと思わなかった。また、機会があったら受け入れたい。」という嬉しい声を頂きました。

福井県（カナダとエジプト参加青年）

月 日	時 間	活動内容
1月19日 (木)	10:33 - 12:44 12:56 - 13:59 14:40 16:40 - 17:00	東京駅より米原駅へ（ひかり 509 号） 米原駅より福井駅へ（しらさぎ 9 号） 県庁内防災センター見学 西川一誠福井県知事表敬訪問
1月20日 (金)	10:00 - 12:30 14:50 - 17:00 18:30 - 20:00	福井県立恐竜博物館見学 福井県立大学で学生との交流 歓迎会及びホームステイマッチング
1月21日 (土)	終日	ホームステイ
1月22日 (日)	10:30 11:36 - 12:44 12:58 - 15:10	ホームステイ家庭より集合 福井駅より米原駅へ（しらさぎ 58 号） 米原駅より東京駅へ（ひかり 520 号）



福井県青年国際交流機構
受入実行委員会 小林仁志

福井県の受入れでは一日目に防災センター見学と知事表敬があり、二日目には恐竜博物館見学、福井県立大学学生との交流、歓迎レセプションが行われました。また二泊三日のホームステイも行いました。

外国参加青年は防災センターでの取組を熱心に学び、恐竜博物館の見学では展示の迫力に圧倒されながらも楽しんでいる様子がうかがえました。また、地元大学生とのディスカッション交流では白熱した議論がなされ、外国参加青年及び参加学生にとっても刺激的なものとなりました。さらにホームステイは、日本の生活や福井県の魅力を知る絶好の機会となったようです。

総じて、外国参加青年そして関わった全ての人にとっても有意義な受入れであったと思います。

京都府（コスタリカとフィジー参加青年）

月 日	時 間	活動内容
1月19日 (木)	10:00 - 12:17 13:00 - 13:30 15:30 - 21:00	東京駅より京都駅へ（のぞみ 221 号） 山田啓二京都府知事表敬訪問 地元青年とグループ行動、夕食
1月20日 (金)	10:00 10:30 - 11:30 13:00 - 14:00 15:00 - 16:00 18:30 - 20:30	宇治橋散策 福寿園で抹茶体験 宇治平等院拝観 伏見稲荷拝観 歓迎会及びホームステイマッチング
1月21日 (土)	終日	ホームステイ
1月22日 (日)	11:00 12:05 - 14:23	ホームステイ家庭より集合 京都駅より東京駅へ（のぞみ 224 号）



京都府青年国際交流機構
地方プログラム受入実行委員長 村田朱里

今回京都府ではコスタリカとフィジーより参加青年 23 名の受入れをしました。表敬訪問では山田啓二京都府知事が和やかな雰囲気を作ってくださいました。二日目は抹茶を石臼でひき、それを飲む体験をしました。平等院鳳凰堂では一万円札の鳳凰や 10 円玉のモデルになったことの説明を受け、見学しました。やはり食べる、見る、触るなど五感に訴える体験では歓声が上がっていました。

歓迎レセプションでは青年たちが華やかな民族衣装で踊りや音楽を披露してくれてホストファミリーの方に大変喜ばれました。

当初あまり馴染みがない国だったので何を喜んでもらえるのか考えるのが難しかったのですが、青年たちが積極的に話しかけ参加してくれたので私たち実行委員も楽しく受入れができました。ありがとうございました。

広島県（インドとニュージーランド参加青年）

月 日	時 間	活動内容
1月19日 (木)	9:30 - 13:31 14:45 - 15:30 16:15 - 16:45	東京駅より広島駅へ（のぞみ 21 号） 広島城見学 高垣広徳広島県副知事表敬訪問
1月20日 (金)	10:00 - 12:00 14:30 - 16:30 18:00 - 20:00	熊野筆の里工房で書道体験 広島県平和記念公園見学 歓迎会及びホームステイマッチング
1月21日 (土)	終日	ホームステイ
1月22日 (日)	10:40 11:13 - 15:13	ホームステイ家庭より集合 広島駅より東京駅へ（のぞみ 20 号）



広島県青年国際交流機構
会長 兼友昭典

広島県では、インドとニュージーランドの青年を迎え、広島城の視察、県庁への表敬訪問、筆の里工房（熊野町）にて書道体験、広島平和記念公園への視察、ホームステイ等を行いました。筆の里工房に展示されている俳句（松尾芭蕉の「古池や蛙飛び込む水の音」）を説明すると、外国参加青年の「水の音」は私のイメージしたものとは大きくかけ離れたもので、改めて異文化を感じ、外国参加青年もまた文化の違いを感じたものと思います。平和記念公園の視察では、「どのようにして広島は復興したの？」「どうして広島が狙われたのか？」など様々な質問が飛び交い、資料館の視察では、食い入るように展示物を見学していた姿が印象的でした。ホームステイ中には、ニュージーランドの青年が庭で「ハカ」をし、地が揺れるような力強さを感じたとホストファミリーから感想を聞きました。

最後に、プログラム中は怪我や病気などなく、進行に大きな問題もなく終わることができました。プログラムを構成・同行した実行委員会の仲間に、感謝申し上げます。

山口県（ブラジルとウクライナ参加青年）

月 日	時 間	活動内容
1月19日 (木)	10:30 - 12:15 14:15 - 14:45 14:50 - 16:00 16:30 - 16:50	羽田空港より山口宇部空港へ（ANA693 便） 瑠璃光寺見学 菜香亭にて着物体験 林省一山口県観光スポーツ文化部審議監表敬訪問
1月20日 (金)	9:40 - 12:00 13:30 - 14:45 15:00 - 16:00 18:00 - 20:00	マツダ防府工場見学 防府市青少年科学館（ソラル）見学 防府天満宮 芳松庵抹茶体験 歓迎会及びホームステイマッチング
1月21日 (土)	終日	ホームステイ
1月22日 (日)	10:30 12:55 - 14:25	ホームステイ家庭より集合 山口宇部空港より羽田空港へ（ANA696 便）



山口県青年国際交流機構
山口県プログラム実行委員長 徳富信恵

今回「世界青年の船」に初めて参加したウクライナ、そしてブラジルの青年の来県は、ホストファミリーを始め関わった多くの方々に貴重な経験をもたらしたことと思います。両国とも高い団結力があり、また、日本語が話せる青年も多数おり、日本に対する意識の高さに驚きました。マツダ工場見学では、多くの青年から熱心な質問があり、予定時間をオーバーするほどでした。

一生懸命準備してきた実行委員として、真面目で朗らかで、「ありがとう」とお辞儀をする青年の姿勢は非常に嬉しかったです。

最後に、本プログラムに御協力いただいた皆様に、心より感謝申し上げます。

出航前研修

1月21日から一泊二日で実施した日本参加青年の直前研修では、NL及びSNL主導で乗船に向けた心構えと意識の統一をした後、委員会別ミーティングで各活動の運営方法などについて検討した。また、ナショナル・プレゼン

テーションの練習やリハーサル、セクシャル・ハラスメントを予防するために話し合いの時間などを設けた。IDI調査実施に関連した説明と講義もこの研修中に行われた。

陸上研修・船上研修

1月23日から28日までオリンピックセンターで実施した陸上研修は、開講式に加藤勝信大臣が出席し、参加青年に対して激励を述べた。陸上研修及び1月29日から3月3日までにつぼん丸で実施した船上研修では、午

前2時限、午後2時限、夜1時限を使って様々な研修が行われた。それぞれの詳細と成果については、第5章を参照のこと。

1 委員会活動

船内活動の時間を効果的に使い、実りある活動を実施するため、参加青年で構成される委員会（委員は各国又は各グループから選出）を組織した。

活動を企画・実施する過程において、多国籍のメンバー

で構成される委員会で協議を重ねることにより、国際的な場面における合意形成とリーダーシップの取り方を学ぶことをねらいとし、そのねらいは、各活動が成功裏に終わったことから達成できたと考えられる。

AGL 委員会

各レター・グループのアシスタント・グループ・リーダー（AGL）を構成員とするAGL委員会では、全参加青年の健康管理補助を目的とした「点呼と体温測定」を行った。船内で開催されたAGLミーティングは、管理部からの伝達事項を確認するだけでなく、グループ間

の連絡・調整や、委員会活動として行うべきことについて話し合う場としても活用された。管理部からの伝達事項は、その後行われたレター・グループのミーティングで、グループ内の参加青年に周知された。

コース・ディスカッション運営委員会

・ディスカッション運営委員会を組織した。その役割は以下のとおり定められ、実行された。

- ・ファシリテーターを補佐し、コースの運営に協力する

- ・参加青年からの意見がある場合、代表してファシリテーターにその意見を伝える
- ・サマリー・フォーラムの企画・運営をし、必要な物品を手配する
- ・所属するコースのまとめのレポートを書く

各種セミナーの委員会

アドバイザーによるセミナーの円滑な実施のため、異文化理解、リーダーシップ、プロジェクトマネジメントの各セミナーの委員会を組織した。その役割は以下のとおり定められ、実行された。

- ・アドバイザーの指示に基づき、セミナーの運営に協力する
- ・セミナーの一部については、委員会が中心となって企画・運営をする
- ・セミナーのレポートを書く

PY・スキルセミナー委員会

PY セミナーは「社会をよりよくするための取組」、スキルセミナーは「船上研修にいかせるスキル」「事後活動に役立つスキル」というテーマに基づき、社会問題やボランティア活動等を自分自身の経験や専門分野を参考に、ワークショップやディスカッション等、参加青年が講師となって積極的にセミナーを開催した。その結果、

発表者のプレゼンテーション能力や自主性が強化されるとともに、参加青年のバックグラウンドや活動について学ぶことができ、青年同士の相互理解や国際的視野の拡大が図られた。PY セミナー委員会はスケジュール管理や機材の準備等、各セミナーが円滑に進むようサポートをした。

ナショナル・プレゼンテーション委員会

ナショナル・プレゼンテーション (NP) は各国の参加青年が、国ごとに、自国の歴史、文化、伝統芸能そして政治や経済等の社会一般について紹介することで、参加各国に対する理解と感謝の念を深めるとともに、自らの国の事柄について再認識することを目的として実施した。

参加各国は自国をいかに分かりやすく紹介するか、練習や議論を重ね、プレゼンテーションを作り上げる過程を通じて協働意識を共有し、より強い団結力をはぐくんだ。

ナショナル・プレゼンテーション①は各国 15 分で各国事業の紹介をし、ナショナル・プレゼンテーション②では各国 15 分で文化紹介として美しい伝統舞踊、音楽、写真や映像などを使って歴史や文化を紹介した。

参加青年で組織した NP 委員会は、リハーサルから発表に至るまでのスケジュール管理、照明、音響の機械操作や会場の飾り付けなどの後方支援を精力的に努め、各国の発表の成功に寄与した。

イベント委員会

イベント委員会は、陸上研修と船上研修に一回ずつ開催されたスポーツ & レクリエーションと、3 月 1 日に開催されたフェアウェルを企画・運営した。

スポーツ & レクリエーションは準備運動から始まり、レター・グループ対抗の「玉入れ」「ぐるぐるバット」「綱

引き」といった種目で親睦を深めた。

フェアウェルでは立食の夕食会の時間を使い、事業中に作詞作曲した歌、代表によるスピーチ、などが披露された。

クラブ活動委員会

参加青年が主体となって、文化にまつわる自分の特技（ダンス、歌、伝統芸能など）を他の参加青年に教える活動として、文化紹介活動（クラブ）が実施された。委員会は、クラブ主催者と連携し、参加青年の所属クラブ

を決定し、3 回実施されたクラブの運営のサポートと、船上研修の後半に実施されたクラブの成果を発表するエキシビションの企画・運営を担当した。

寄港地委員会

ニュージーランド及びフィジーの訪問国活動において、学校訪問でのパフォーマンスを考えた。またフィジーにて各国の文化を紹介するミニ・ナショナル・プレゼン

テーションを実施した際、音響や発表者の誘導などを担当した。

2 その他の研修と活動

事後活動セッション

日本青年国際交流機構の事後活動派遣代表者の3名が、事業終了後の活動の説明及び国内や世界各国のネットワーク作りについて説明するためにソロモンから東京間に乗船し、2月24日及び25日に事後活動セッション

を開催したほか、セッション以外の時間には、船内でSWYAAの活動や事後活動を紹介するインフォメーション・デスクを設置し、参加青年と直に意見交換や情報提供を行った。

グループ活動

日本参加青年と10か国からの参加青年約20名で構成されたA～Kのレター・グループで様々な活動を行った。レター・グループは活動の際、基本となる活動単位で、陸上研修では1月24日に日本参加青年が計画した都内視察を行い、船上研修中は毎日夕方に30分のグループ・ミーティ

ングの時間を取った。このような活動を通じて、単なる情報共有のみならず、問題や喜びなども共有し合い、きずなを築き親睦を深めた。また、日々のグループ・ミーティングでは、その日に達成したことや、翌日の目標を定める時間を取った。

自主活動

休日や自由時間を利用して、共通の興味や関心を持つ参加青年の自発的なアイデアによる様々な活動が行われた。企画・運営のすべてが参加青年たちによって行わ

れ、それらの活動を通して参加青年間相互の理解と親交を深めた。

修了式・帰国後研修

3月1日、ドルフィンホールにおいて修了式を行った。修了式では、厳かな雰囲気の中で修了証の授与が行われ、各国のNLが代表して壇上で修了証を受け取った。その後、参加青年を代表してインドのNLのサティア・スフィン氏がスピーチを行った後、大熊直人管理官からあいさつがあり、閉会となった。

平成29年3月3日及び3月4日の二日間は日本参加青

年に対し、ル・ポール麹町、都市センターホテルにおいて帰国後研修を行った。研修では、6月に実施される帰国報告会に向けた準備等を行ったほか、NLによるプログラム振り返り等を行った。また、本事業で得た知識や経験などをいかす事後活動のネットワークについて日本青年国際交流機構の代表者より説明された。